

## 患者喀痰および環境から分離した *Mycobacterium avium* complex の抗結核薬感受性

<sup>1</sup>森重 雄太    <sup>2</sup>山崎 利雄    <sup>1</sup>天野富美夫

**要旨：**〔目的〕患者喀痰および環境から分離した *Mycobacterium avium* complex (MAC) の、イソニアジド (INH), リファンピシン (RFP), エタンプトール (EB) に対する感受性を解析し、臨床分離株と環境分離株で薬剤感受性に差が見られるか検討した。〔方法〕微量液体希釈法により、各種薬剤の最小発育阻止濃度 (MIC) と最小殺菌濃度 (MBC) を測定し、分離株ごとの MIC/MBC 分布を解析した。〔結果・考察〕いずれの株も INH に対して高い MIC と MBC を示したが、両者において累積分布に大きな差は認められなかったことから、INH は殺菌的に作用していることが示唆された。一方で、RFP と EB に関しては、臨床分離株と比較して環境分離株のほうがやや高い MIC と MBC を示した。また、特に臨床分離株において、MIC と MBC に大きな差が認められた。これらの結果から、EB のみならず、通常は殺菌的に作用することが知られている RFP も、低濃度では静菌的に作用する可能性が示唆された。**キーワード：**非結核性抗酸菌、抗結核薬感受性、MIC (minimum inhibitory concentration), MBC (minimum bactericidal concentration)